

交野市 報告

- 交野市 交野市では、不登校や虐待への未然防止・早期対応のための訪問型家庭教育支援ということで行っております。教育委員会指導課が中心となってこの事業を行っているのですが、学校の切実な課題として、長期欠席者、不登校の問題というのが挙げられます。特に小学校の児童で不登校になる子というのは、家庭的な課題を抱えている場合もあり、担任の先生が家庭を訪問して児童に働きかけるのですが、それだけではなかなか難しい状況もあって、この訪問型支援を実施してきました。
- 前年度の反省といたしまして、前年度は不登校支援ということで打ち出したのですが、不登校支援という言葉だけではなかなかイメージが付きにくく、また、逆に重篤化した不登校の子への支援という印象が強く、成果が上げられなかったということもありまして、今年度は未然防止・早期対応ということで遅刻や登校しぶりとか、少し気になるなという家庭にピンポイントで訪問をしていこうと考えました。
- 今年度、各中学校区にスクールソーシャルワーカーとスクールカウンセラーを派遣しているのですが、例えば同じ日に派遣をして、そこでしっかりと情報共有できるような形も取りました。また、市の臨床心理士もその都度、行くようにして、つながりを強化して、家庭児童相談室などの関係機関とも、早期対応・未然防止ということで、アセスメントをして派遣していくということを年度当初に設定しました。
- この活動の成果として、家庭への働きかけということが定着したことで、学校における未然防止・早期対応に向けたケース会議が積極的に行われるようになったということがあります。
- 小学校において、これまでの不登校のケースでは、学校の対応だけでは難しい場合は専門家の人が来て、ケース会議を開くということが多く、登校しぶりとか、遅刻ということであれば、担任の先生だけで何とかしようというのが多く、当初はこのケースで会議が必要なのか疑問だったようですが、この取組みによって、何か少し気になるという初期段階でのケース会議を行い、支援につなげる、つまり、早期対応のための会議を持つことで、組織的対応の重要性が各校に定着しております。
- 実績としては、今年度は6家庭となっております、1家庭はすでに重篤化していた状況ですが、後の5家庭につきましては、早期対応ができ、今のところ不登校につながっていないということで、未然防止という成果があったのではないかと思います。
- 支援員として活動されている方が、交野市の子育て支援サポーターの「ほらりす」という団体で、以前から「ほらりすひろば」という広場を運営し、福祉部での子育て相談もやっておられます。訪問型子育て相談という形で、「そのような支援員さんが来られますよ」と、家庭に紹介したところ「ちょっとお話を聞いてみようかな」ということから、福祉機関への支援にもつながったという事例もありました。
- また、教育委員会社会教育課が主催で「親学習」をやっているのですが、今回は指導課が主催して実施し、支援対象の保護者の方も3名ほど参加がありました。
- このような形で未然防止や早期対応、学校の体制にも助けていただき、非常にうまく融合して、実施できるようになったというのが、交野市のアウトリーチ型家庭教育支援でございます。

交野市の取組みへの意見・質疑

- 座長 ありがとうございます。では交野市の取組みについてですが、ご意見、ご質問ありましたら、願います。
- 委員 本当に積極的に予防支援とか、未然防止ということで、効果があったという報告をいただきました。各中学校区にスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー配置ということなのですが、小学校2校、中学校1校とか、そのような形になりますか。

- 交野市 平均しまして、各中学校区には、2から3の小学校がございまして、その小学校も含めた配置という形になります。
- 委員 スクールソーシャルワーカーの場合、巡回型と配置校型というのがあって、配置校型は、日頃、先生方や校長先生方と顔が見える関係ができていて、身近に相談できる体制をつくるというのが、早期対応・未然防止に効果的だと言われてはいますが、その辺のところをどう配慮されたのか聞かせていただいてよろしいでしょうか。
- 交野市 まず、中学校にスクールソーシャルワーカーを配置しておるのですが、スクールカウンセラーの方もスクールソーシャルワーカーの方も、校区の小学校へ出向くことが多く、そこでバランスは取れているのかと思います。今、交野市で、小・中一貫教育というのをすすめておまして、教科だけではなく、生徒指導に関しましても小・中一貫ということで、情報共有するという形を取れたのも大きかったと思っております。
- 委員 そこでそれぞれの先生方とか、学校側との顔が見える関係や信頼関係ができていたということですね。
- 委員 われわれとしても、不登校が出ている中で、早期の対応をしていかないといけないと思っているところですが、学校で、例えば遅刻とか、登校しぶりがあった時に、支援の流れはどうなるのですか。「ほらりす」に、直接学校から依頼をかけるのか、その後、その流れはどのようになっているのか教えていただけますか。
- 交野市 直接学校側が「ほらりす」に電話をするのではなくて、効果的な支援を考えるケース会議を学校で持っていて、市教委もケース会議の内容を聞いて、「ほらりす」の方も学校に行き、「どのような支援が必要か」ということを聞いて、派遣する形です。訪問する保護者の方の同意は、絶対必要となっています。
- 委員 その辺は学校なり、行政から話があってという流れですか。
- 交野市 家庭訪問に担任の先生が行かれた時に、お母さんが困っていたら、「子育てに詳しい方を連れてきます」ということで支援員とつながるとというのが一番多い形です。
- 座長 よろしいですか。
- 委員 今の報告を伺いながら、ちょうどこの事業がスタートした頃のことを思い出していました。不登校支援のように見えるのですが、これは不登校の子どもたちへの支援ではなくて、家庭教育支援だということです。今、ご紹介くださったこのような取組みは、家庭教育支援の原点を改めてお話ししてくださったものと思っております。
- もう一つ、家庭教育支援というのは、訪問型支援と親学習の二本柱で進めてきましたが、その二つを結びつけて取り組まれたというのは、画期的なことだと思います。少し質問になるかもしれませんが、訪問支援をされた方が、どのようにお誘いされたのか、ヒントをいただけたらと思います。
- 交野市 「ほらりす」の方がお母さん方のお話を聞いて、「共感の場はどうでしょう」と指導課にご提案をいただいて、関わっている家庭に「こんなのやるのですが、どうですか」ということで紹介いただいて参加につながったということです。
- 委員 親学習のほうは、参加してほしい方に参加していただけないということが悩みだったのですが、ここに大きな道を開いてくださいました。ありがとうございました。